

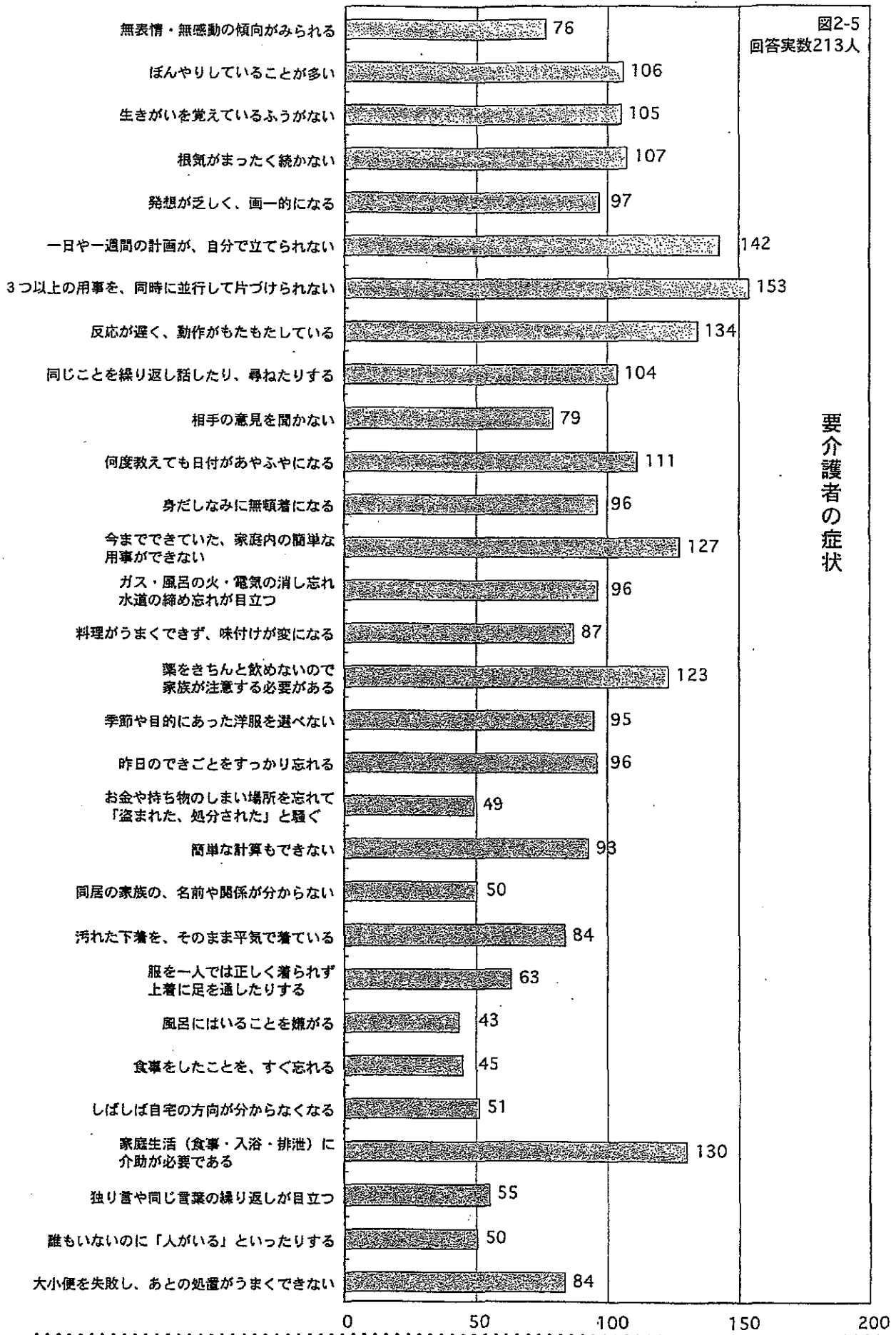
平成19年10月19日

『これからの地域福祉のあり方に関する研究会』
意見報告 資料

「地域で安心して老いるために願うこと」

釧路地区障害老人を支える会
(たんぼぼの会)
会長 岩淵 雅子

1. たんぼぼの会の中で～「足の一本でも折れてくれたら…」
2. 「ぼけた人の命を守ってください」～徘徊老人SOSネットワークづくりへ
3. SOSネットワーク10年の検証と地域のカ
4. 家族介護の実態調査から見える認知症の人と家族
5. 若年性認知症の人と家族の支援とネットワークづくり
6. 共に支え合う地域づくりをめざして～新しい「つながり」の再生を



症状からみた痴呆の状態

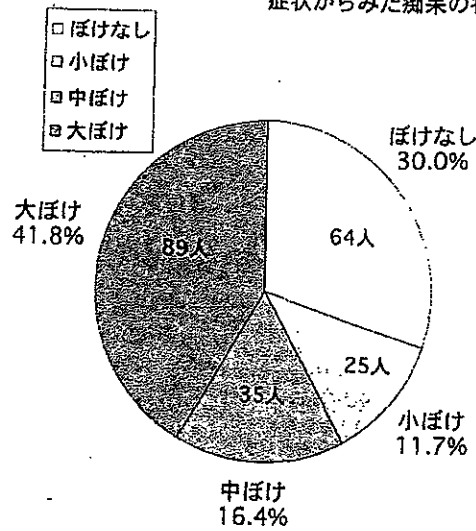
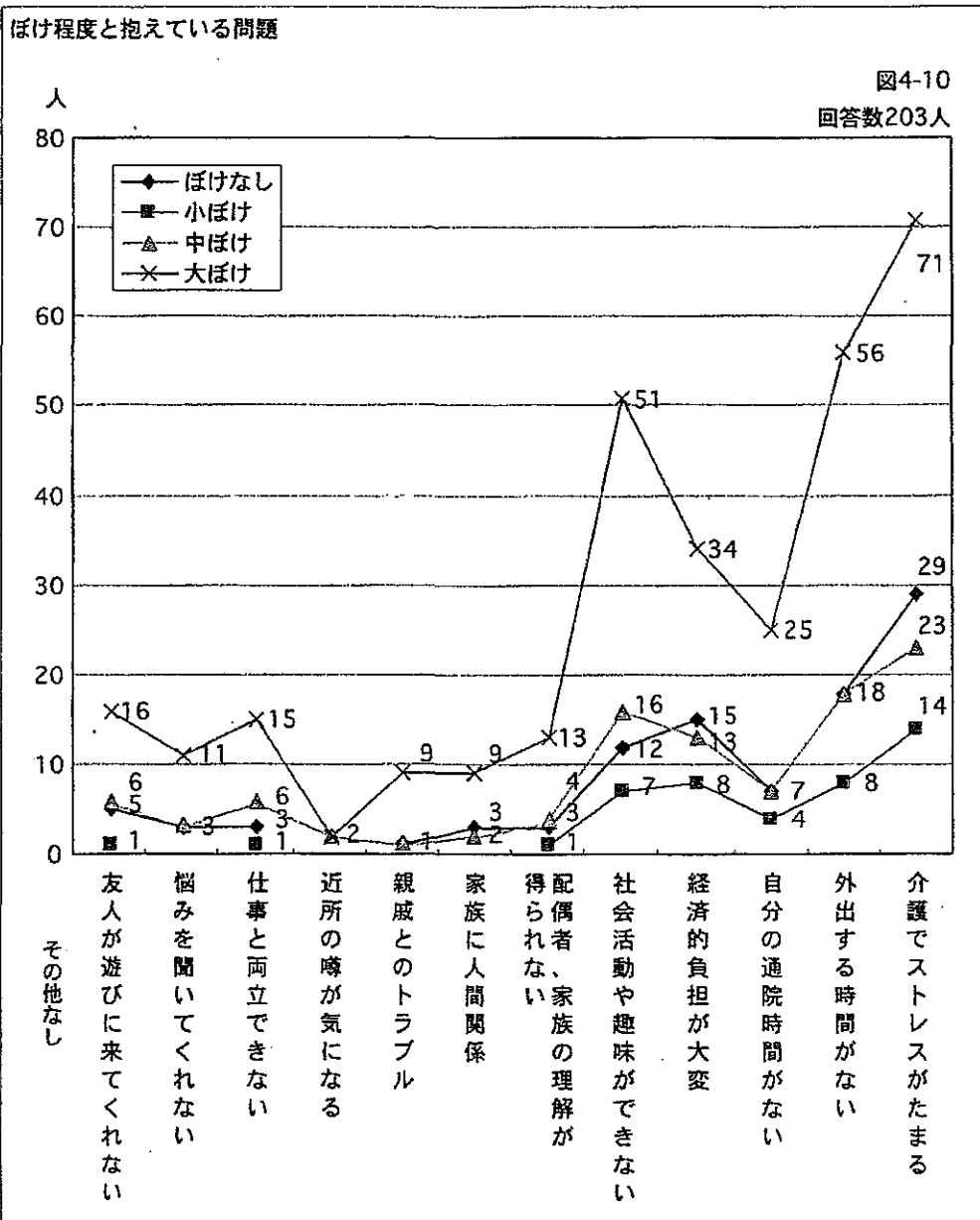


図2-6
回答数213人

- 小ぼけ：家庭生活では支障がないが、家庭の外、世間にとると社会活動面で様々な支障がある。
- 中ぼけ：身の回りの事は自分でやれども家庭内のことができない。
- 大ぼけ：身の回りのことも自分でできなくて介護がいる。見かけや態度は大人だが理解や判断力は幼児レベル。

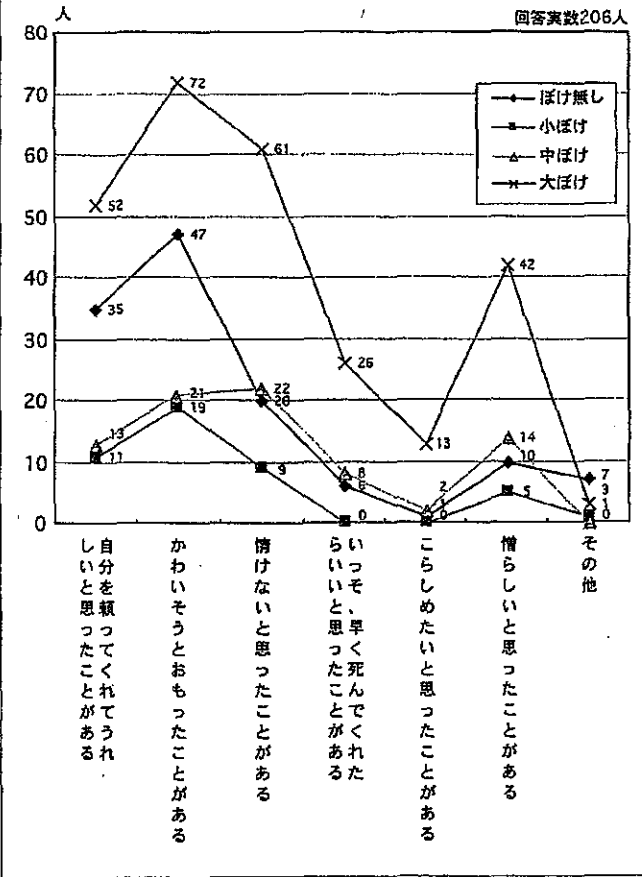
8. 介護上の問題



ぼけの程度と要介護者への感情

図4-13

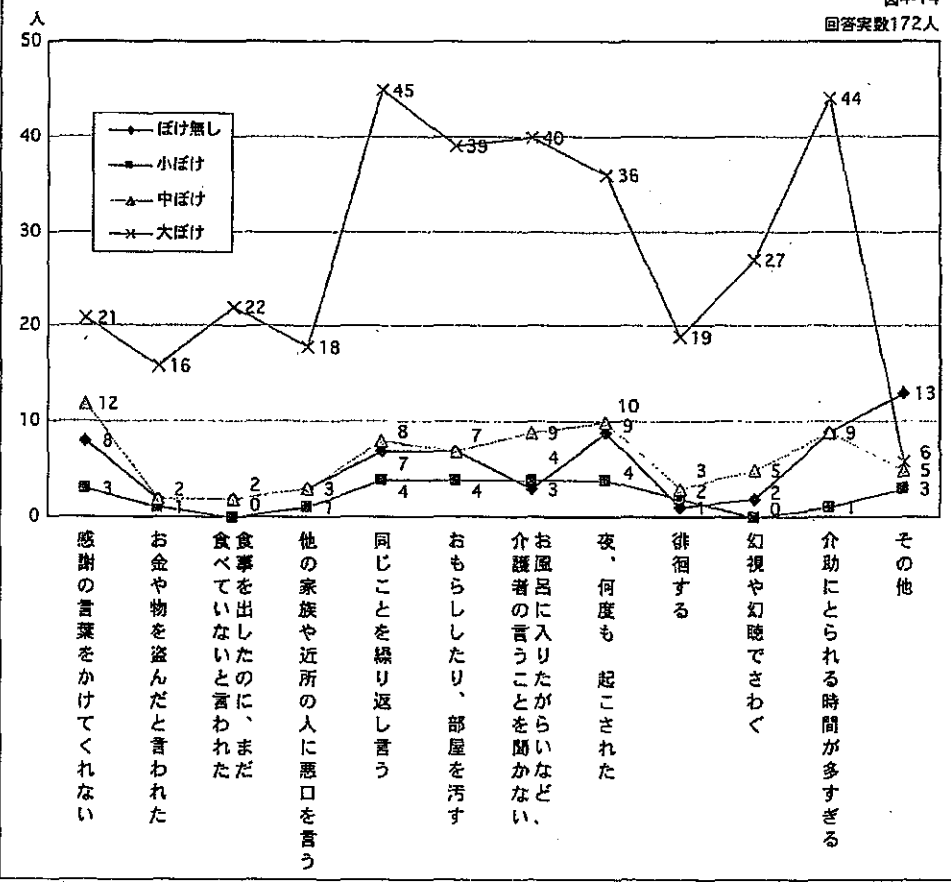
回答実数206人



ぼけの程度とトラブル

図4-14

回答実数172人



要介護者への態度

図4-16
回答実数173人

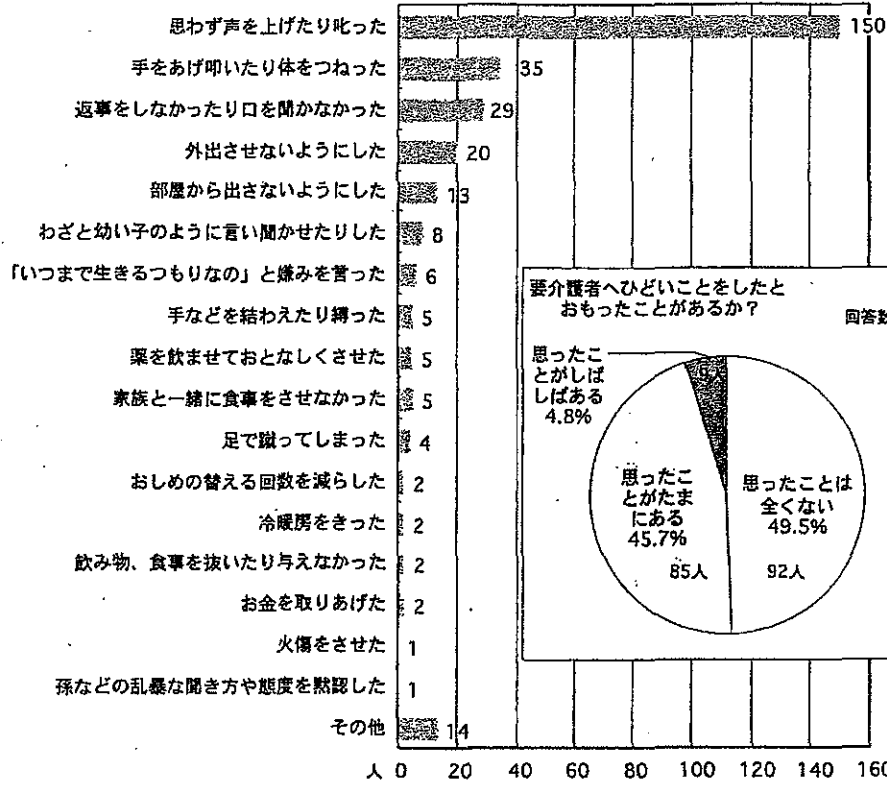
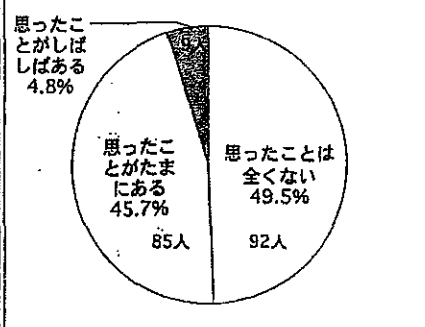
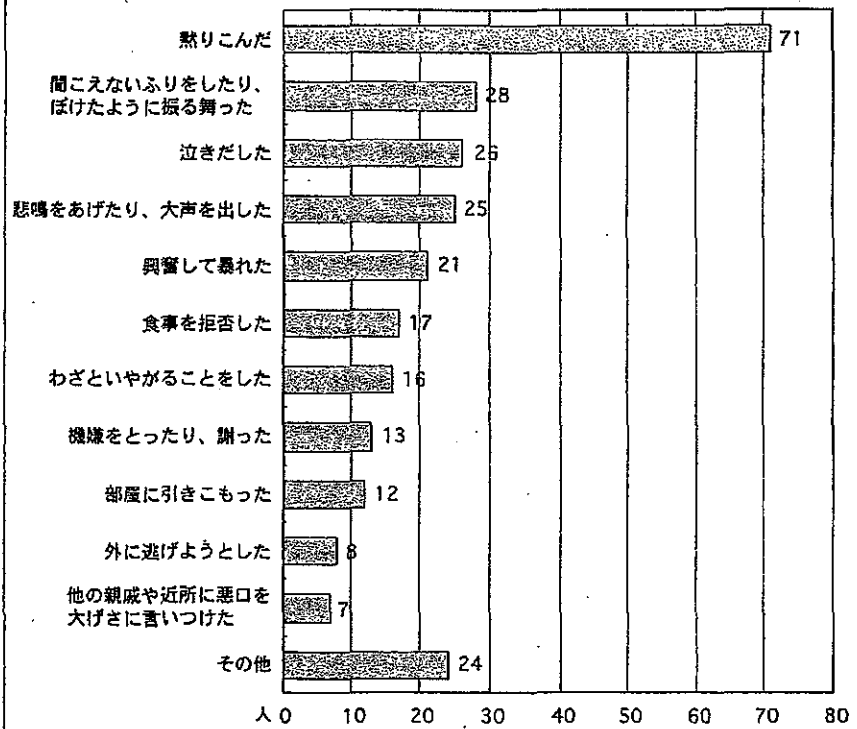


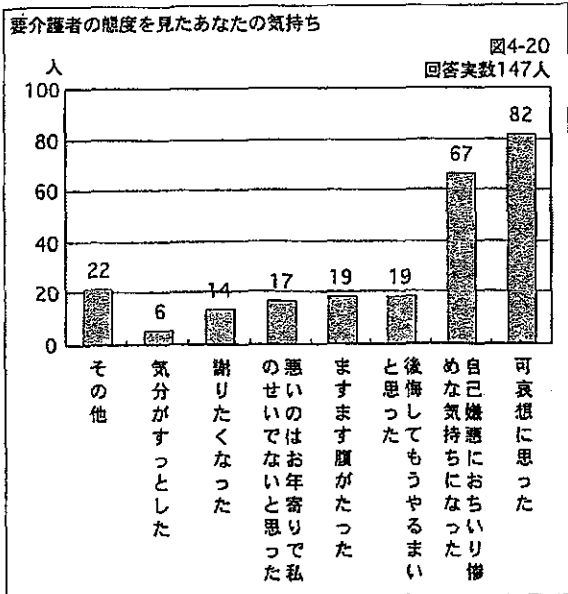
図4-15
回答数186人



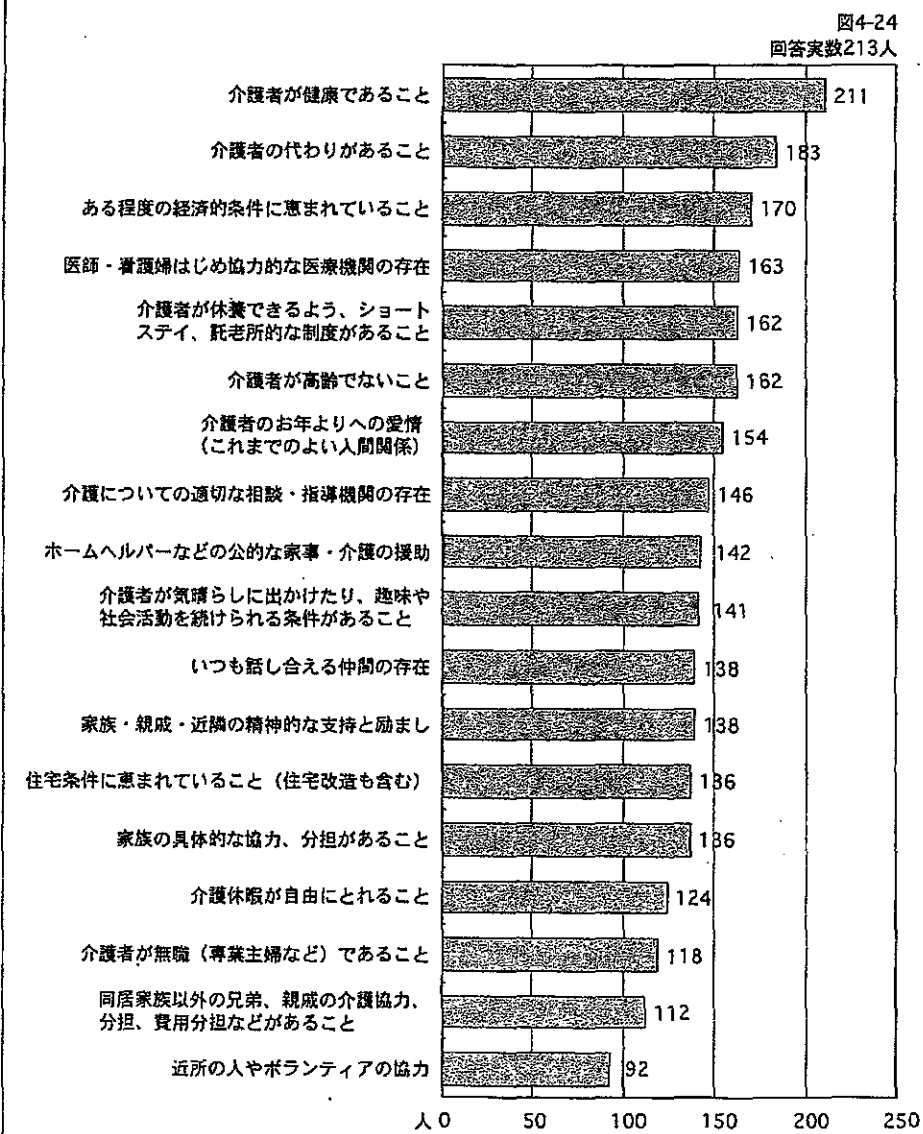
介護者の叱責に対する要介護者のとった態度

図4-19
回答実数153人





お年よりを在宅で介護できるために必要な条件



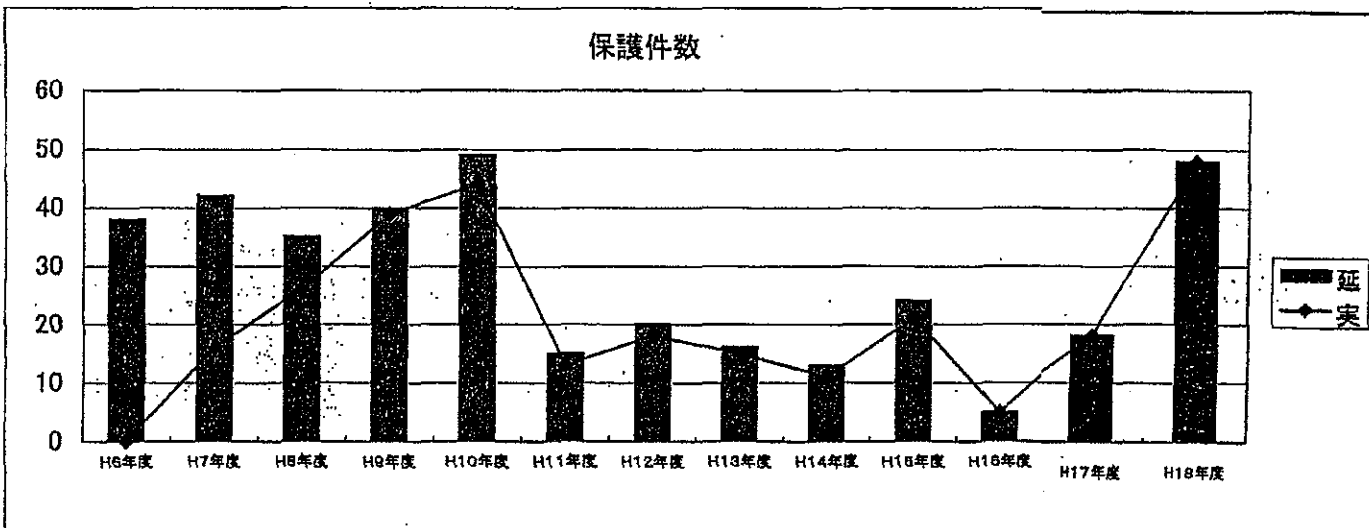
SOSネットワーク 利用状況(H6～H18)

(各年度3月末現在)

1 件数

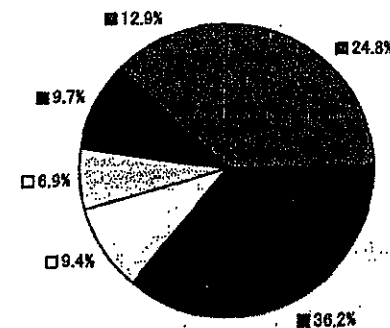
	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
実	0	16	26	39	44	13	18	15	11	21	5	18	48
延	38	42	35	40	49	15	20	16	13	24	5	18	48
死亡				2	1			1	1			1	1
不明				1			1					1	
計	38	42	35	43	50	15	20	17	14	24	5	20	49

保護件数



- 警察官
- 通行人
- 家族等
- タクシー
- 自力
- その他

発見者



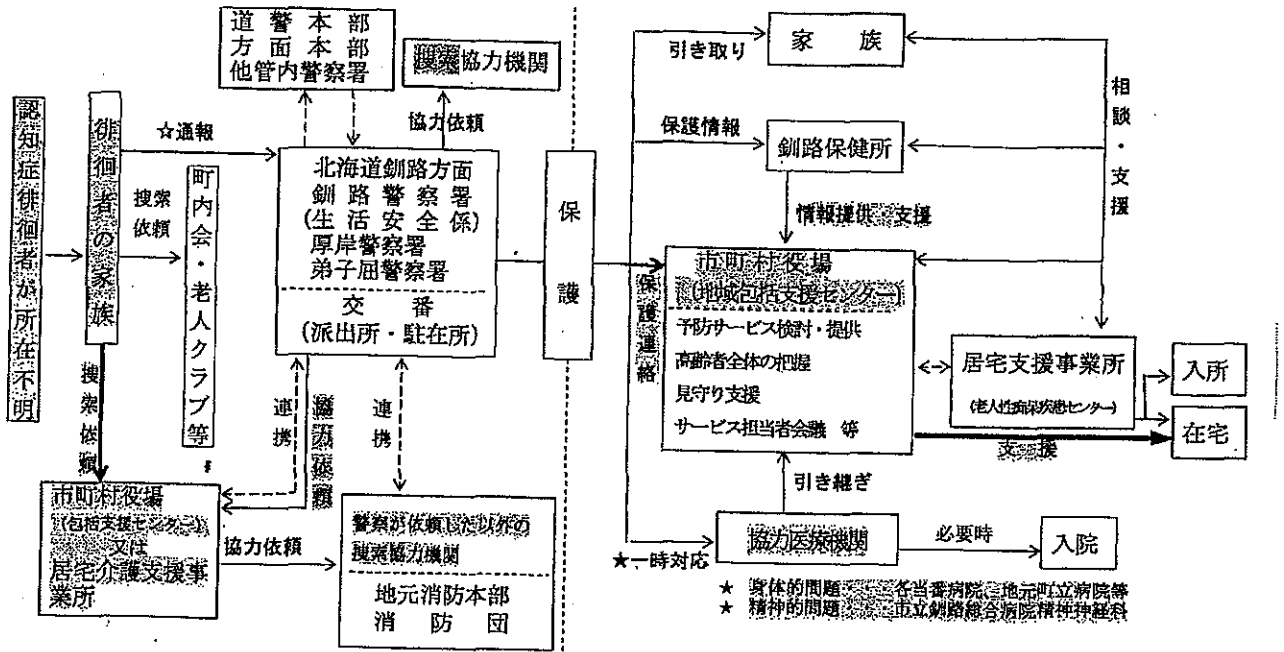
※その他

消防(1)、店員(4)、会社員(1)
 バス運転手(1)、病院職員(2)、施設職員(8)
 大学職員(1)、捜査員(1)、町村職員(1)、保健師(1)

- ・保護件数に関しては、平成6年度から10年度までは、延30から50件で推移。
- ・平成11年度からは10～20件台に減少し平成16年度には5件となったが17年度以降増加に転じている。
- ・実延では平成7年度は複数回保護されるお年寄りが多かったが、8年度以降実延件数に大きな差は見られない。

釧路地域SOSネットワークフローチャート

※網掛け部分変更



注1 警察からの捜索協力機関、市町村役場の協力は家族同意必要
 注2 連絡用紙による通報（電話）の後、発見されなければ、正式の捜索願の提出

図1 徘徊老人の年齢別内訳 (1994-2003)

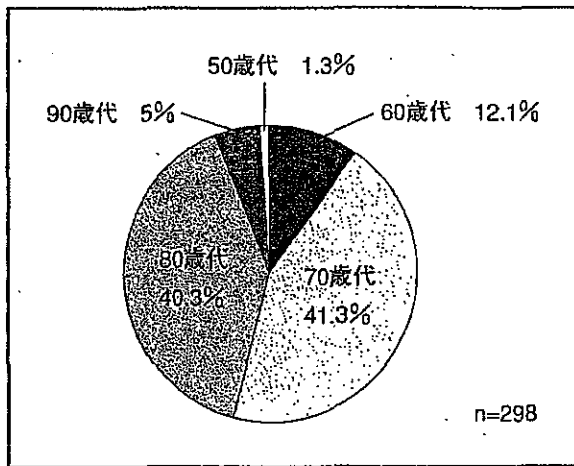
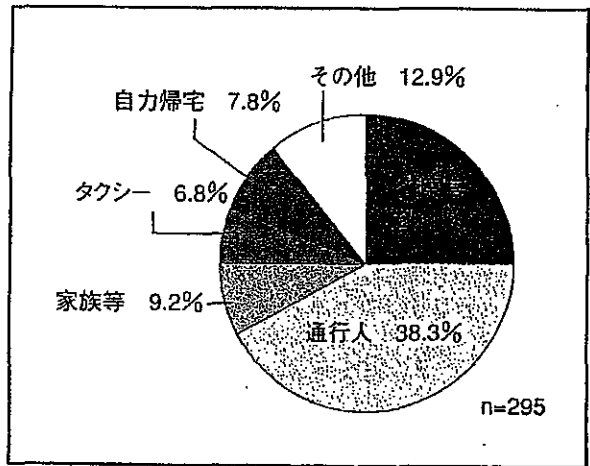


図2 徘徊老人の発見者の属性 (1994-2003)



〈図1、2出典〉平成16年度SOSネットワーク連絡会議資料より

表4 不明にいたる誘因

- ◎ (ささいな) ストレスを抱えて
 - ・先立つ失敗 (いつもの簡単なことができない)
 - ・簡単なことが思い出せない (子供の住所) 忘れ物 (家の鍵)
- ・人に仕事を言い付けられて
 - 夫にタクシーを誘導するようにいわれて
 - 家の前の雪かき、目を離したすきに
- ・直前に家族と小さないさかい、しかられて
- ◎居場所の変更
 - ・転居、子供の家に移り住み
 - ・遊びに行く: 子供のところ
- ◎老老介護 (介護者も痴呆気味、気づき・対応の遅れ等)
- ◎ (日中) 独居

表7 本人のことは、みつかった時

- おちかがわからなくなった
- 道に迷ってしまった (夜、玄関先からいなくなった)
- デパートに買い物きた。帰り方がわからなくなった、と
- 散歩しているうちに帰る道がわからなくなった。
家まで送って欲しい
- (自分で交番にたどり着いて)、
頭がぼかになった、帰り道がわからない、と
- 夫の命日で花を取りに山にいった。
- よそのおじいさんに会ってたばこをご馳走になった
- 野菜をとりに来た (基地でみつかった)

